

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471001022
法人名	有限会社 梨の実
事業所名	梨雲ハウス平戸
訪問調査日	令和2年3月18日
評価確定日	令和2年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和1年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001022	事業の開始年月日	平成16年1月15日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	有限会社 梨の実			
事業所名	梨雲ハウス平戸			
所在地	(244-0803) 神奈川県横浜市戸塚区平戸町1156-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和2年2月15日	評価結果 市町村受理日	令和2年6月6日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員にとって「家庭」と「仕事」の両立、「細く長く」をモットーにご利用者ご家族、地域の方々と馴染みの関係作りを心掛けています。

・献立のメニュー作りをはじめ食材の買い出し調理を全て自前で行う事で、四季折々の食材を楽しむ機会を大切にしています。

・敷地内の畑で作物を耕作しています。職員、利用者と協力し作物を収穫したり採れたての野菜や果物を召し上がって頂いています。

・様々なボランティアの方々に関わって頂く中での役割を大切にしています。職員だけでは行き届かない介護をサポートして頂きながら、認知症の理解と共有を深め、互いに気づきの時間を作っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和2年3月18日	評価機関 評価決定日	令和2年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は有限会社梨の実の運営です。事業所名の「梨雲ハウス」とは以前は梨園として梨が栽培されていたことから、この名前が付けられ、2つのユニット名にも「幸水・豊水」と梨の名前が付けられています。ここ「梨雲ハウス平戸」は平成16年1月に開所してから16年の歴史と実績のあるグループホームであり、JR横須賀線「東戸塚駅」4番乗り場からバスで5分程の「坂下口」停留所下車して徒歩2、3分の国道1号線沿いから1つ裏手に入った静かな環境下にあり、アパートや戸建て住宅などが混在する場所にあります。

●代表は、グループホームで生活する利用者、預ける家族、働いている職員の3者が納得でき、共に楽しみや幸福を共有することができるグループホームにしたいという思いでここ「梨雲ハウス平戸」を立ち上げました。ケアにおいても、開設時に作成された理念「利用者様が過ごされてきた生活体験を大切にし、自分らしく生きるための環境と家庭的な雰囲気の中で、ゆとりと生きがいの提供を心がけます」の基に、ホーム長や主任をはじめ、全職員が利用者の気持ちを第一に考え、その方の人生観や人間性を受容し、敬意を持ってケアに当たっています。新たに目標を立て、現在は「褒めて・認めて・励まして」を目標とし、当たり前を忠実に日々実践できるように取り組んでいます。

●家族や地域とのつながりは事業所の特徴でもあり、退去された利用者家族、元職員などが任意で集まる「ひよどりの会」、不定期に開催している「梨の実塾」などにも参加していただいている他、消耗品などを提供してくださっています。地域とは、ボランティア、老人会の方々や来訪され、楽器演奏やゴスペルの披露、訪問カット、ハンドマッサージ、散歩の付き添いなど様々な形で関わって下さっており「地域の方々に支えられている」という感謝の気持ちも込めて、事業所主催の「梨雲祭や秋刀魚の会」に近隣の方々に招いての交流を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	梨雲ハウス平戸
ユニット名	豊水

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所とヘルパールームの壁に「梨の実の理念」を掲示して、実践する様に努めています。 ・豊かな土地を利用して裏の畑で育てた作物を入居者だけでなく、ご家族や近隣の方々にも行事の際に召し上がっていただいています。 	開設時に職員で話し合っ作成した「梨の実の理念」をユニット内と事務所に掲示しています。新たな取り組みとして、現在は月毎に目標を作成しており「褒めて・認めて・励まして」を両ユニットの共通目標として掲げています。理念の中に「ゆとりと生き甲斐の提供を心掛けます」と謳っており、理念と目標を実践すべく、職員は常に「褒めて・認めて・励まして」を意識しながら利用者と共に、ケアに当たっています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアの方々に支えられ、エレキギターやサクソスの演奏、神輿くぐり、ゴスペル等楽しんで頂いています。 ・地域の防災訓練やお祭りにも参加しています。 	地域の防災訓練やお祭りなどの行事に極力参加し交流を図っています。地域ボランティア、老人会の方々が来訪され、楽器演奏やゴスペルの披露、訪問カット、ハンドマッサージなど様々な形で関わってくださっており、「地域の方々に支えられている」という感謝の気持ちも込めて、事業所主催の「梨雲祭や秋刀魚の会」に近隣の方々を招いて交流を図っています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方々にも当施設の行事に参加して頂いています。又、地域の老人会の皆様に月に一度訪問を受け、GHの生活の様子を見て理解を深めて頂いています。 ・毎年近隣の中学校2校からの「職業体験」を受け入れています。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回開催しています。 ・町内会長、包括支援センターの職員、ご家族、後見人、職員が参加する事で率直な意見交換の場になっています。 ・お互いのご家族同士の意見交換をしています。 ・災害時のサポート等の話し合いをしています。 	町内会長、地域包括支援センター職員、家族、後見人の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。事業所の現状や活動報告をはじめ、近年は自然災害の数や規模が大きくなってきていることから、災害時における対応や協力体制についても議題に挙げて話し合っています。地域包括支援センター職員からは地域で抱えている問題や困難事例などの情報提供をいただくこともあり、事業所として協力できることなどについても提案し、地域の問題解決に尽力しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護受給者の相談や高齢支援など、区の方々との連携を行っています。 ・医療面においてもGHの実情を伝えながら安心した生活を営んで頂ける様医療従事者の方々との連絡を密にした取り組みに努めています。 	横浜市や戸塚区から研修や講習会の案内が届いた際には、職員にも情報提供や周知を行い、職員の参加を促しています。横浜市のグループホーム連絡会にも加入しており、横浜市の担当職員や他事業所との情報交換や共有できる機会でもあるので、極力参加するよう心がけています。また、ケアプラザ主催のケアマネサロンにもケアマネージャが出席しています。生活保護受給者の受け入れを行っている関係で、区の担当者から問い合わせなどもあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束をしないケアをしています。転倒防止や無断外出外泊の危険に対しては、会議で検討し安全に安心して生活ができる様に心掛けています。 ・出入口を施錠していますが、いつでも出られる様に職員は鍵を常に携帯しています。 	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、代表、ホーム長、主任を中心に、現在入居中の利用者において、拘束の必要性や対応に苦慮している事案などが無いかなど話し合いを行っています。毎月のフロア会議でも、ヒヤリハットを基に、安全を確保するうえで、拘束につながり兼ねない対応や言葉かけが無いか？話し合いながら身体拘束の無いケアに取り組んでいます。出入口の鍵は施錠していますが、職員は常に鍵を携帯しており、様子を見ながら解除するなど、閉鎖感を感じることをしないよう支援しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴や清拭時に身体の変化（あざ、傷）がないか観察しています。変化があった時には、その場で職員と話し合い原因を探ります。 ・言葉の暴力については、フロア会議などで常に話し合い、職員間の意識の向上に努めています。（スピーチロックについての勉強会も行う） 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見人制度（司法書士、弁護士）を活用されている利用者が複数いらっしゃいます。後見人の方と接する事で、金銭管理、入院手続き又は、ホームで生活する上で様々な事について相談しながら利用者の支援に努めています。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項説明書、利用契約書を全て説明し ホームでの生活を理解して頂きながらご家族の不安、疑問、要望等を伺う様努めています。 ・一人ひとりに見合った対応を心掛けています。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に内部外部の、苦情相談窓口について説明しています。又、玄関に連絡窓口の記載されたものを掲示しています。 ・ご家族の面会時やケアプラン面談等、又は 運営推進会議でお話しする時間を頂きながら 随時職員に伝えていきます。 	契約時に重要事項説明書に明記している苦情相談窓口などについて説明すると共に、玄関にも連絡先を掲示し、家族や後見人に周知しています。基本的には面会に来られた際、運営推進会議、担当者会議でも、近況報告と併せて意見や要望を伺っています。また、毎月個別で作成し、郵送している「ご利用者様おたより」には、各フロアの職員が様子についてコメントを記載しています。家族との信頼関係や家族とのつながりは、事業所の特徴の1つでもあり、ホーム長、主任問わず、どの職員が対応しても気さくに話せる関係が構築されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回フロア会議、毎日の申し送り、朝礼にて職員同士で情報共有を心掛け、意見を出し話し合いを重ねています。 日頃より代表者、管理者、主任からの声掛け、職員の思いを汲み取る様に努めています。 職員が参加出来る掲示板を活用しています。 	職員からの意見や提案は業務中や休憩時間問わず、代表、ホーム長、主任が様子を見ながら話を聞くようにしており、働く職員にとって、風通しの良い職場環境作りがされています。職員からの意見や提案、業務改善事項があった場合は、毎月フロア会議、申し送り、朝礼で情報共有を心がけ、さらに、パソコンやスマートフォンなどのツールを使用した掲示板も活用して、情報の共有漏れがないように努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 個々の職員のライフスタイルを考慮し、無理せず、安心して気持ちよく仕事ができる様に職場環境作りに取り組んでいます。 やりがいや向上心を持って働ける様日々の仕事についての思いや悩みを伺っています。 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 新人の方には分からない事が有ればすぐに聞ける環境を整えています。 やりがいや向上心を持って働ける様に日々の仕事についての思いや悩みを伺っています。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の他事業所の行事に参加し代表者、管理者、職員との交流を心掛けサービスの向上に努めています。 地域包括センターの方に運営推進会議の出席を呼び掛け、様々な情報交換をしています。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> 入居前にご家族、ご本人と面談しこれまでの生活や環境、要望をお聞きしています。 G Hの生活の様子を詳しく説明し、実際に見学して頂く事によって不安な事のない様に努めています。 新しい環境に気持ちよく慣れて頂ける様ゆとり時間をかけて、ご本人と話す時間を作っております。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の思いが叶えられるように努めています。新しい関係作りの中で、不安や悩み、希望をご家族や関係者からお話を伺う様、心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご入居時、その1ヶ月を目安に、GHでの生活の様子をご家族に報告しています。 ・利用者、ご家族の要望に合っているのか等確認し、より良いサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・少しの時間でも話す時間を作り、昔話やご自身の事、今の気持ちを伺えるような会話をつくるよう努めています。 ・実現したいことの思いを分かりあえる様、お互いの意思疎通に努め、共に暮らす関係の構築に努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご都合のつく日は、面会に来て頂いています。外出、外泊、旅行等のご希望有方にはご家族との大切な時間を過ごして頂いています。 ・年に数回、ご家族と旅行を楽しまれている方もいらっしゃいます。 ・ボランティアとして手品、音楽会又はホームの行事等にお手伝いして頂き、ご本人を支える関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族、親戚、知人との面会、外出は自由にして頂いています。年賀状、暑中見舞等、その時期に合ったハガキを郵送しています。 ・週末には娘様と外出され自宅で過ごされる方もいます。	その方が今まで築き上げてきた関係を継続していただくためにも、友人や知人などの面会制限は設けていません。家族や親戚が本人にとって1番の馴染みでもあることから、外出や外泊を希望される家族には、介護の助言などを行い、家族が安心して一緒に過ごせるように配慮しています。年に数回、家族と旅行されている方もおり、個々に馴染みの関係を継続できるように支援しています。レクで絵葉書などを作成した際には家族に渡しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者間の関係性を把握し、良好な関係を築くことが出来る様に支援しています。 利用者間の交流が図れる様にアクティビティーに参加して頂ける様に声掛けを行っています。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が退居された後もご家族にはバザーや新年会、梨の実塾等への参加のお声をかけさせて頂いたり、定期的に会報を送りコミュニケーションを図っています。又、ご家族様の特技を披露する場としてコーラス、手品ショー、お茶会などボランティアとして関わって下さって頂いています。 		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活の中で利用者へ声掛けし、会話の中からご要望や希望を汲み取れる様に心掛けています。 ケアプランの面談時に、可能な方はご本人を含めご家族からお話を伺い、どのような生活を送りたいか要望をお聞きしています。 	入居前のアセスメントで、家族、本人、後見人、在宅時に利用していたケアマネージャなどから、生活歴や既往歴、趣味や嗜好品、暮らし方の希望などについての情報を聞き取り、基本情報シートを作成して、職員間で情報を共有しています。本人や家族の希望は可能な限り介護計画に反映させ、思いや意向に沿った支援を心がけています。入居後は、日々の関わりの中で本人が発した言葉、気づきを申し送りなどで共有しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ご入居前にご家族とアセスメントを実施し、利用者の今迄の生活環境、家族関係や趣味等の情報を頂いています。又その情報をいつでも確認できる様、記録を個人ファイルに管理し、職員への周知に努めています。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の申し送りで食事、睡眠、排泄、心身の状態等の情報交換を行っています。 日々変わる状態に応じて必要な支援を行える様に職員間で情報共有に努めています。 変化の大きい利用者には「体調管理ノート」に記録し適切な対処が出来る様にしています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ご家族とは、定期的に話し合い、医師や歯科医師、理学療法士からの情報を基に利用者の様子の変化に合わせて介護方法を検討し介護計画を作成しています。 	初回は、入居時のアセスメントで得られた情報を基に暫定の介護計画を作成し、ADLやIADLなどの状態について差異が無いかも含め経過を観察しながら情報を収集しています。その後は介護記録、ケース記録、夜間用情報交換ノート、体調管理ノートなどの情報を基にモニタリングやアセスメントを行い、計画作成者担当者が介護計画の原案を作成し、職員の意見や気づきを記入できるようにし、それらの情報を基に現状に即した介護計画を作成しています。家族とは定期的に介護計画について話し合い、家族の要望も取り入れた介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 日々の様子は、介護日誌・ケースに記録しています。又体調に大きな変化がみられる場合は個別に「体調管理ノート」に記録して利用者の様子を職員間で情報を共有できる様にしています。 全ての情報を基に介護計画を見直しに活かしています。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 訪問リハビリを希望される方に「理学療法士」に依頼しています。 体調の変化に応じて必要な時はご家族と話し合い、今後の対応について決めています。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティアの方に定期的に訪問して頂いています。(生け花、お茶会、ハンドマッサージ、訪問、クラブ、マジックショー、フラダンスなど沢山のボランティアの方々に来て頂いています。 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の主治医との関係を継続し、良好な関係を保っています。 ご家族とも連携をとりながら、状況によって職員と同行し日常の様子を報告したり相談したりします。 利用者の状況を考えた上、かかりつけ医と相談し往診して頂くなど常に主治医、ご家族と連携をとりながら対応をしています。 	事業所では医療連携加算を取っておらず、かかりつけ医がある場合には、基本的にかかりつけ医を継続して受診していただくようにしています。その際、日頃の様子なども家族へ丁寧に説明し、情報の共有漏れのないよう努めています。利用者の体調や状況を考慮したうえで、可能であれば、かかりつけ医に往診に来ていただけるよう相談しています。歯科医は、希望される方のみ往診を受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職員はいませんが、日々の生活の中での体調の変化などは直接主治医に相談しています。 ・医師の判断で訪問看護を利用される場合があります。情報の提供等に努めています。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院された時は、その方に合った対応をして頂ける様、情報提供をしています。 ・退院時、今後のGHの生活の中で何が出来るかを考え、関係者と相談しながら利用者が安心して退院できるよう努めています。 		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、ご家族、後見人の方に希望を伺い主治医との相談で今後の生活について話し合いを重ね安心して頂ける様努めています。 ・住み慣れたGHで最期を迎えさせたいと、ご希望されるご家族が増えています。 ・主治医、介護職員（日勤者、夜勤者）と連携してご希望に添える様に努めています。 	重度化や終末期における対応については、契約時に事業所の方針やできること・できないことについて説明しています。事業所では家族の意向を第一とし、状態の変化に応じて家族と話し合いの場を設け、今後の方針を決めています。近年では、看取りを希望される家族も増えてきたので、主治医や職員で連携を取りながら希望に沿えるように努めています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、夜間共に急変の際に備えて「事故時・急変時のマニュアル」を各フロアにおいてあります。 ・介護計画書に緊急時の連絡先を記載し、目の届くところに掲示しています。 ・消防署の職員により応急手当や緊急時の対応について学んでいます。 ・夜間は急変時担当を決め、迅速に対応出来る様努めています。 		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の防災訓練だけでなく、日頃から訓練を行い火災や災害時の対応を身につける事に努めています。 ・備蓄倉庫を設置し、災害時での対応に備えています。 ・地域の防災訓練に参加して、地域との関係性が築けるように努めています。 ・運営推進会議には、町内会長が参加されるので地域と協力体制をとれる様、相談・助言を頂いています。 	年2回の防災訓練は、火災や地震を想定して行っています。昨年は台風などの自然災害も多かったことから、今後は台風などの自然災害も想定した訓練も取り入れていきたいと考えています。事務所内にも119番通報や初期消火対応のフローチャートを掲示し、いざと言う時に迅速に対応できるように努めています。備蓄品は裏庭の倉庫に発電機、水、米、炭、テント、リヤカーなどを確保しています。また、地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議でも自然災害を含めた防災対策を議題に挙げて話し合っており、災害時の協力体制についても確認しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の気持ちを大切に、職員同士で注意し意識する様に心掛けています。又、利用者の生活歴等を意識し、敬意を持って接しながら声掛けや対応を努力しています。 	<p>入職時やフロア会議でも、「接遇、倫理、コンプライアンス」について勉強会を実施し、正しい理解と知識を深めています。特に利用者の気持ちを大切に、その方の人生観や人間性を受容し、否定しないことを心がけ、敬意を持って対応することを徹底しています。利用者の入居年数や、職員の勤務年数が長くなるにつれて、馴れ合いなどが生じることのないよう、節度ある声かけや対応で接しています。</p>	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族との話し合いで希望や要望等伺い、思いに沿える様に努めています。 ・日常の利用者とのコミュニケーションを大切に、どんな生活がしたいのかを伺い、その思いを大切にしています。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の体調、気分に合わせて、食事時間や睡眠時間など配慮し出来るだけ利用者が自分のペースで生活できる様に努めています。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にハンドマッサージ、訪問カットを行っています。又、身だしなみを心掛け、朝の洗顔やブラシでの整髪、髭剃り、爪切りを行っています。 ・一緒に買い物に出かけ、お好みの洋服を選んで頂きました。 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々から差し入れや、畑で収穫した野菜や果物を使用し、食事作りをしています。(茄子、大根、じゃが芋、イチジク、蜜柑等)又、食事の準備や片付けのお手伝いをしています。 ・片づけが出来る方(下膳)はして頂いています。 ・お茶碗やお箸は利用者に合った食器を使用されています。 	<p>各ユニットの職員が交代で1ヶ月分の献立を作成しています。食材の調達については、生鮮食品や米は専門店から購入し、それ以外の物については生協から購入しています。味付けなどは調理を担当する職員によって異なるので、家庭と同じように微調整を加えたりしながら、個々の好みの味で召し上げていただくようにしています。裏の畑で四季折々の作物を栽培しており、収穫した野菜などが食卓に並ぶこともあります。開設以来、食事のメニューは職員で考え、手作りの食事を提供していることも特徴の1つであり、利用者からの希望などにも柔軟に対応することも可能となっています。</p>	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事・水分チェック表で1日あたりの摂取量を毎日確認しています。 ・一日の水分摂取量がお茶や水で摂取するのが困難な場合、好きな飲み物(ジュース等)を準備し、なるべく摂取して頂いています。 ・食事摂取量が少ない方には、声掛けや、ふりかけなどでなるべく召し上がられる様に行っています。 ・体調の変化など、その都度の変化に応じた支援をしています。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後には口腔ケアを行っています。又月2回訪問歯科の方が口腔内を見て下さり医師の方とも連携しています。 ・食事の際、誤嚥性肺炎等の防止の為、食事の前に口の体操、食事時の姿勢の維持も心掛けています。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けを行う様にしています。 ・食事の前後は特に排泄しやすいと言われていました。見計らいトイレ誘導し不快な思いをさせない様に心掛けています。 	排泄チェック表をもとに1人ひとりの排泄パターンを把握し、定時や様子を見ながら声かけして、トイレで排泄していただくように支援しています。極力トイレで排泄していただくことを基本としていますが、体調や状況によっては、ポータブルトイレなどを使用する場合があります。毎日ラジオ体操を行ったり、水分摂取量の管理、乳製品や繊維食を提供するなど、便秘対策も講じています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・全身を動かすラジオ体操や手足を動かす部分体操を行っています。 ・慢性便秘症の方には医師の指導で、腸の動きが活性化が臨める体操やマッサージを行っています。又、胃腸になるべく優しい食事作りを心掛けており、乳酸飲料やオリーブオイルを料理に使用し食事で摂取して頂いています。特に低残渣食の方には食物繊維などに注意を向け心掛けています。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調管理を大切にしながら、声掛けを行い入浴して頂いています。その際には、昔の話をしたり利用者一人ひとりに合わせた入浴方法で気分転換を図っています。 	週2回以上入浴を基本としていますが、利用者の体調や意思を尊重した柔軟な対応で入浴支援を行っています。各ユニットにはリフト浴が完備され重度化した方でも浴槽に浸かっていただくことも可能となっています。また、季節感を感じていただくために、菖蒲、蜜柑、ゆず湯なども行い、入浴を楽しんでいただけるように工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の年齢、体調、意思を考慮しマイペースに休める様にして頂いています。 ・チェック表を用いて寝具の洗濯、布団干しを定期的に行い衛生管理に努めています。 ・居室の温度、湿度、照明に配慮し快適に過ごして頂ける様に支援しています。冬季は居室の保湿の為濡れタオルをかけるなどの工夫をしています。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのお薬の説明書をファイルし、効薬や副作用の確認をしています。 ・配薬表を作成しリーダーが確認し責任を持って利用者の服薬をして頂きます。又、服薬ミスを防ぐ為職員間で何度もチェックを行っています。 ・お薬手帳の役割、管理の共通認識に努めています。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯畳みやお盆拭きなど手伝って頂いています。 ・利用者の希望を伺いながら興味のある事、個々に合った楽しみを提供しています。 		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設のイベント、地域行事(吊るし雛や夏祭り)などに参加しています。 ・帰宅願望が強い利用者の希望を関係者と連携をとりながら調整し、実現することが出来ました。 ・外食として近隣の飲食店へお出かけし楽しみました。 	<p>天気や気候、利用者の体調を考慮しながら敷地内を歩いたり、設置しているベンチに腰掛けながら外気浴を行うなど、外気に触れ、季節感を感じていただけるように支援しています。また、職員や家族以外に、老人会の方々も散歩にお連れしてくれています。他施設や地域の行事(平戸吊るし雛、夏祭り)への参加も外出支援の1つとして出かけています。</p>	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の所持は基本、必要であればこちらで管理させて頂いています。本人が所持する事により不安感を軽減するのであれば、ご家族と相談し所持するか否かを決めています。 ・日用品を買いに利用者と同じ物へ行く事もあります。 ・ご家族と相談してお札の入ったお財布を常に持っている方もいらっしゃいます。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一部の利用者の中で携帯電話を所持し、ご家族や知人とのメールや通話でコミュニケーションをとって頂いています。 クラフトで季節のハガキを作成して、それぞれのご家族に送っています。ご本人が希望される時は電話でお話することで安心して頂いています。 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> トイレの場所が分かるように案内を大きくはっきりと表示しています。 春は桜、夏は朝顔、秋は紅葉、冬はクリスマスの飾り付けなど季節感の有る飾りを折り紙などを用いて、なるべく手作りで制作して掲示しています。 運動会、お誕生日会、お茶会等の行事の写真をアレンジして掲示しています。利用者が「私も参加していたのね」「楽しかったね」など思い出が少しでも心に残り語れるように工夫しています。 	<p>キッチン是对面式になっており、キッチン越しに調理の香りや音なども聞こえ、自然と皆が集まれるようなリビングになっています。行事の時に撮影した写真、季節や行事ごとに装飾を変え、なるべくレクリエーションで制作した手作りの作品を飾り、温かみと季節感を感じていただけるように心がけています。リビングの一角に和室コーナーも設けられ、ソファも設置されており、思い思いに過ごせる空間作りがされています。</p>	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 和室のソファでテレビを見られています。又、食卓テーブルの座席に気の合った方同士が座れる様工夫し会話が弾む様子が見られます。 その時々と想いでアクティビティーに参加されたり、その様子をご覧になれる方や居室で過ごされる方、一人ひとりの時間を尊重しています。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が自宅で使用されていた愛着のある家具やテレビなどを持ち込んで使用して頂いています。 ご家族の写真や馴染みのある品物を置く事で、安心して生活を送って頂ける様に心掛けています。 	<p>ベッド、クローゼット、エアコンは完備され、その他に必要な家具類などは本人と家族で相談しながら馴染みの物を持ち込んでいただくようにしています。使い慣れた家具や思い出の品々、家族写真なども飾られ、安心して生活を送れる居室作りがされています。また、転倒防止の観点から、家具なども、動線を考慮して配置されています。</p>	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> トイレや居室など分からない為に不安になられる利用者があります。一目で分かる様に大きめの文字で示しています。 必要に応じて居室にポータブルトイレを設置します。 人の動線に障害物を設置しない様にしています。一つでもご自身で出来る事が継続できる様に工夫しています。 		

目 標 達 成 計 画

事業所 梨雲ハウス平戸

作成日 豊水ユニット

令和2年3月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12・13	勤続年数の長い職員が多い環境においてそれぞれが向上心を持ちより良い方向に変化していく。 (世代交代)	・各自がやりがいを感じながら仕事する。	・時間をかけて徐々に進める。	数年
2	27	情報の共有をスムーズに行う。	それぞれの職員が全ての情報を得る事ができる。	日々の出来事の変化をケースや、フロア内の連絡事等は介護日誌に連絡事項として必ず入力する。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	梨雲ハウス平戸
ユニット名	幸水

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所とヘルパールームの壁に「梨の実の理念」を掲示して、実践する様に努めています。 ・豊かな土地を利用して裏の畑で育てた作物を入居者だけでなく、ご家族や近隣の方々にも行事の際に召し上がっていただいています。 		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアの方々に支えられ、エレキギターやサックスの演奏、神輿くぐり、ゴスペル等楽しんで頂いています。 ・地域の防災訓練やお祭りにも参加しています。 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方々にも当施設の行事に参加して頂いています。又、地域の老人会の皆様に月に一度訪問を受け、GHの生活の様子を見て理解を深めて頂いています。 ・毎年近隣の中学校2校からの「職業体験」を受け入れています。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回開催しています。 ・町内会長、包括支援センターの職員、ご家族、後見人、職員が参加する事で率直な意見交換の場になっています。 ・お互いのご家族同士の意見交換もできています。 ・災害時のサポート等の話し合いをしています。 		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護受給者の相談や高齢支援の区の方々との連携を行っています。 ・医療面においてもGHの実情を伝えながら安心した生活を営んで頂ける様医療従事者の方々との連絡を密にした取り組みに努めています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束廃止取り組みに関わる届出書兼誓約書」を横浜市に届出しています。 ・転倒や無断外出、外泊の危険に対しても会議等で話し合い安全安心に生活を営んで頂ける様職員間での情報の共有に努めています。 ・出入り口は施錠していますが、いつでも外に出て頂ける様、職員は常に鍵を携帯しています。 		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄、入浴、薬の塗布、着替え、清拭の際に身体に異変がないかの確認に努めています。変化があった時には、その場で職員で話し合い原因を探ります。 ・利用者への声掛けや接し方について（スピーチロック等）会議や日々の申し送り等でその都度話し合っています。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度（司法書士、弁護士）を活用されている利用者が複数いらっしゃいます。後見人の方と接する事で、金銭管理、入院手続き、生活上の様々な事について相談させて頂きながら利用者の支援をさせて頂いています。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項説明書、利用契約書、プライバシーポリシー、を全て読み合わせにて説明しホームでの生活を理解して頂きながらご家族の不安、疑問、要望等を伺う様に努めています。 ・お一人お一人に見合った対応ができる様 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に内部、外部の苦情相談窓口の記載されているものを提示しています。又、各フロアの玄関に当ホームの苦情連絡窓口の記載されているものを掲示しています。 ・ご家族の面会時やケアプラン面談時、又、運営推進会議で話されたことを、日頃より職員に伝える事を心掛けています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のフロア会議、日々の申し送り、朝礼にて職員の意見や要望を伝える場を設けています。 ・日頃より代表者、管理者、主任からの声かけを心掛け、職員の思いを汲み取れる様に努めております。 ・職員が参加できる「掲示板」を活用しています。 		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の職員のライフスタイルを考慮して、曜日、日数、時間帯、時間数等細かく話し合い無理のないシフト作成に努めています。 ・突発的な事情による遅刻、早退、欠勤、休職等についても柔軟な対応に努めています。 ・ここ数年職員一人一人の働き方を確認する為にアンケートをとっています。 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修として「梨の実塾」を開催していますが、今年度はまだ行っていません。 ・4月に業者の方を招き職員向け「オムツの当て方講習会」を行いました。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の他事業所の行事に参加し、代表者、管理者、職員との交流を心掛け、サービスの向上に努めています。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前面談の聞き取りの際、今迄の生活スタイルや環境等を把握できる様努めています。 ・安全面に配慮しながら、ご本人とご家族の要望を伺い、職員間で話し合って実現できる様努めています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> 入居前の面談や電話で、不安に思っている事や要望を伺い、ご家族の意向の把握に努めています。 ご家族が気軽に話して頂ける様な雰囲気作りに努めています。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 面会時や電話でこまめに様子をお伝えしています。 入居後1か月を目安に暫定のプランに沿ってGHでの生活の様子や、これからの過ごし方について、直接話し合う時間を設けています。 		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> それぞれご本人の出来る事や、やりたい事の把握に努め、体調に合わせてご本人と話し合いながら決めています。(洗濯物干し、洗濯物畳み、テーブル拭き、下膳、ごみ出し 備品運び、喫煙) 		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ご本人が安心してGHで生活して頂ける様に職員だけでなく、ご家族も一緒に考えて頂きながら支援していく関係作りに努めています。 可能であれば通院の同行もご家族にして頂いています。 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 面会時間を設けずに、ご家族の都合のいい時間に面会に来て頂いています。 出来る限りご家族や知人の方との時間を大切に過ごして頂ける様努めています。 携帯電話を所持し、自由にご家族とのメールのやりとりをされている方もいらっしゃいます。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士の関係性の把握に努めています。場合によっては席替えを行い、円滑な交流の支援をしています。 ・日々気の合った利用者同士がレク等に参加出来る様に声掛けをしています。 ・聴覚の不自由な方の関わりも職員が代弁したり、筆談する事で良好な関係を築けるよう努めています。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約終了時に「ひよどりの会」（退居された利用者のご家族、退職された職員、関係業者で構成）の入会を呼び掛け、継続した関わりのお場を作っています。（会報の配付、行事へのお手伝い、参加の呼びかけ） 		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事等GHで決められている時間に囚われず、ご本人に合わせた対応を心掛けています。 ・聞き取りが困難な場合も、ご家族と相談しながらこれまでの生活歴や現在の状況に合わせて検討しています。 ・嗜好品やこだわりのある方に、出来る限り希望に添えるよう努めています。 		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族と相談しながら、居室に馴染みの物品（テレビ、ソファ、写真等）を置いて頂き、今迄の生活環境を大切にしながら暮らしをして頂ける様努めています。 ・入居前や入居後に、ご家族から1日をどの様に過ごされたか伺い把握に努めています。 ・ご自宅から入居される場合は、ベットの位置関係を同じくする事で混乱が少なくなる配慮します。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の申し送りや朝礼にて、食事、睡眠、排泄、心身状態等の情報を共有している。 ・TV鑑賞の好きな方は、毎朝、新聞で番組表を見て居る方など思い思いの生活を送っています。 ・変化のある利用者には体調管理ノートで把握しています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ご家族や関係者と定期的に話し合いをしています。 状況の変化に合わせて職員間で介助方法を検討したり、声掛けの統一をし介護計画の作成に繋げています。 		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 日々の様子は、介護日誌やケースに記録しています。体調の変化がある時は個々の状況表や体調管理帳の記入を行いその情報を基に介護計画の見直しに活かしています。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の心身の変化に合わせて、理学療法士との連携や成年後見人制度の利用等を行っています。 座位の傾きが強い方の「傾き防止用のクッション」や拘縮の強い方が着やすい衣類などその方にあった物を手作りしています。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 地域の老人会のボランティアの方々との長い関りから、それぞれの個性を引き出す機会を頂いています。 様々な種類のボランティアの方々とお過ごし事で、利用者の豊かな生活を支えて下さっています。(訪問カット・お茶会・東戸塚歌う会・サクソフォン演奏会) 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の希望に合わせて、かかりつけ医を決めて定期的に診察を受けています。ご家族がいらっしゃらない方は職員間や区役所の担当者と話し合い、必要な医療が受けられるように支援しています。 受診や往診時には現在の状況を伝え、かかりつけ医との良好な関係作りに努めています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職員は配属されていません。 ・訪問看護を利用されている時は情報の共有に努めて不安な事などを相談し連携を心掛けています。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院された時は、その方に合った対応をして頂ける様、情報提供しています。 ・退院時はその後、GHとして何が出来るかを考え関係者と相談しながら、利用者が安心して退院できるように努めています。 		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れたGHで最期を迎えさせてほしいというご家族が増えています。 ・ご家族から希望がある場合は、ご家族とかかりつけ医との話し合いの時間を作って頂き、その中でGHとして出来ることを考え、チームで支援できるように努めています。 		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・急変や事故時の対応マニュアルを各フロアに設置しており、いつでも確認できるようにしています。 ・急変時の個々の対応や連絡先は介護計画書に記載されています。 ・夜間緊急時に夜勤者がいつでも安心して相談できるように当番制で担当者を決定していま 		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署との防災訓練だけでなく、自ら訓練を行う事で火災や災害時の対応を身に着ける事に努めています。尚、訓練を行う際は、当日リーダー以外には伝えず抜き打ち訓練が行われることもあります。 ・運営推進会議では、町内会長を始め地域の方々との協力体制が取れる様に相談・助言を頂いています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いや対応について、会議・申し送り・朝礼等で話し合い、お互いが確認し合える様に努めています。 ・職員の対応が利用者の生活に大きく左右する事を職員自身が自覚する様に努めています。 		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢が沢山ある中で選択するのが困難な方には、いくつかの選択肢を用意し自己決定が出来る様に声掛けに努めています。 ・言葉での自己決定が困難な方は、表情や仕草から思いを汲み取れる様に心掛けています。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の体調や気分に合わせて食事時間の配慮など、出来るだけ利用者のペースを大切にしながら過ごして頂ける様に努めています。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の着たい洋服や身につけたい物の希望を伺い、オシャレを楽しめる様にしています。又、毎朝起床されてからの洗顔や整髪等の日々の身だしなみに気をつけています。 ・訪問カットでは、利用者に事前に希望を伺って訪問美容師の方にお気に入りの髪型にしています。 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた食材を取り入れたメニュー作りをしており、裏の畑で収穫した野菜を召し上がって頂いています。(茄子・ゴーヤ・サツマイモ等) ・配達された食材と一緒に台所へ運んだり、食事前のテーブル準備、行事の際はおやつ作りに参加して頂いています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、食事・水分チェック表で利用者の1日あたりの食事と水分の摂取量を確認しています。 ・お茶などで水分摂取が難しい方にはジュースやココアを用意しなるべく水分を摂取して頂ける様に努めています。又医師と相談し食事としてエンシュアを取り入れている方もいらっしゃいます。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、口腔ケアを行っています。磨ききれない場合は、職員がお手伝いさせて頂いています。 ・訪問歯科で定期的な往診を受けています。医師や歯科衛生士のアドバイスで歯ブラシの他にスポンジブラシやワンタフトブラシでの対応して行っています。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの排泄パターンを把握した上で、声掛けや誘導を心掛けています。(排泄チェック表を用いて毎日の状態を職員が共有しています) ・夜間トイレに行くのが困難な方は、居室内にポータブルトイレを設置しております。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のラジオ体操や手足などの部分体操の他にも散歩やアクティビティー等で身体を動かすことを日々心掛けています。 ・適量の水分摂取や胃腸に負担が少ない食事作りに努めております。又牛乳やヨーグルト、オリーブオイル等取り入れ薬だけに頼らない排泄支援に努めています。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの状態を把握し安心して入浴を楽しむことが出来る様に入浴の方法は一般浴・シャワー浴・リフト浴・清拭などでその都度考えています。 ・季節に応じた入浴を楽しんで頂いています。(菖蒲湯・みかん湯・ゆず湯等) 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 廊下にベンチが設置しており、一人の時間を過ごせる空間を作っています。 安心して休める様に各居室の整理整頓、清掃、寝具類の選択等の衛生面に気をつけています。 無理強いするのではなく自然に休める様に心掛けています。又本人に合わせて日中も適度な 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの薬の説明書をファイルし、効薬、副作用等確認し薬のチェックを行っています。 服薬担当者を中心にその日の職員で確認しながら服薬支援に努めています。 薬の期限表を作成し、利用者の薬の期限が一目で分かる様にしています。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 居室の掃除や洗濯物干し、洗濯物畳み等一人ひとりの張り合いや喜びに繋がる事を一緒に見つけて関わって頂いています。 1日3回の喫煙の時間を楽しまれている利用者がいらっしゃいます。喫煙の際は、火は職員が管理しています。 		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 職員やボランティアの方々と、徒歩や車椅子で近隣に散歩に出かけています。又、天気の良い日は外で体操をしたり庭や近隣に咲いている花を見て季節を感じて頂いています。 数名をグループ分けし散歩、外食、ドライブの支援に努めています。 		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 職員と一緒に車で洋服を買いに行ったりしています。ご本人様が出掛ける事が困難な場合は、職員が代わりに買って来る事もあります。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご自身で携帯電話をお持ちで、ご家族とメールのやり取りをしている方がいらっしゃいます。こちらでは携帯電話の充電の支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・床暖房や空調管理の他、換気や濡れタオルを掛ける事によって湿度、風邪予防、不快感がない様に気をつけています。 ・季節を感じて頂ける様に、季節の生け花やリビングの展示品の飾りつけを心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・和室のソファに座ってテレビ鑑賞をして、ゆっくりと過ごされています。 ・利用者同士の関係性に配慮した席を考えていますが、アクティビティー時には自由に思い思いの席に移動して過ごされています。 ・廊下にベンチを置いて、一人で落ち着ける		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や物品を居室に置いています。配置については利用者の状況に合わせ対応しています。 ・ご本人の希望によりご主人の遺骨を持ち込まれている方もいました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレや居室の扉に文字を掲示したり、廊下に矢印を書いて分かりやすい様にしています。 ・夜間トイレに行く際に危ない可能性を防止するために夜間照明に気をつけています。		

目 標 達 成 計 画

事業所

梨雲ハウス平戸

作成日

幸水ユニット

令和2年3月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	48	ご入居者がやりたいことをもっと取り入れたい	行事の起案の時から主体的に関わっていただく	<ul style="list-style-type: none"> 起案を作る時に、昔の思い出等伺う 行事に取り入れられるものは取り入れる 	数年
2	50	お金に触れる機会を作る	全員ではないが、出来る方は、買い物の時に支払いをしていただく	<ul style="list-style-type: none"> ご自身の買い物やコンビニ等でおやつを買う時に、お札で支払いをしてお釣りを受け取っていただく 	数年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。